

# 「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 1 日

事業名称		交通安全推進事業費 [交通安全推進事業]									
予算科目	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 9	公安費	事業番号	2			
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> 補助対象 <input type="checkbox"/> 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)										
担当部署・課長名	道路交通（土木）				課	交通対策（交通安全対策）	係	課長名	一ツ木 正美		
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。							施策番号	4 - 4			
【施策名】 道路・交通の整備							総合計画書 (ページ)	89			
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。				① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）						
	市民等で市内公共道路の利用者				市民等で市内公共道路の利用者数						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]				② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）						
	市内での交通事故の発生と死傷者数を最大限抑制する。				前年数値より減少させる。						
2 指標の推移	③ そのために何をしましたか。				③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）						
	①交通立看板の設置・交換 ②春・秋の全国交通安全運動の実施 ③交通安全教室の実施 ④東大和・武蔵村山交通安全協会に対する支援 ⑤東京都市町村民交通災害共済の加入促進 ⑥高齢者運転免許証自主返納支援（運転免許証を自主返納した65歳以上の市民で希望者にちよこバス回数乗車券を1冊交付）				①通学路等に設置・交換した交通立看板の数 ②市報への掲載、交通立看板の設置（市内8箇所）回数 ③幼児、児童、生徒、高齢者を対象とした交通安全教室の実施数 ④東大和・武蔵村山交通安全協会に対する補助金額 ⑤Aコース、Bコースの加入受付数 ⑥回数乗車券の交付人数						
	対象指標		①の数値	人	—	—	—	成果目標			
	成果指標		②の数値	件・人	事故件数（240件） 死傷者数（281人）	事故件数（272件） 死傷者数（312人）	事故件数（317件） 死傷者数（353人）				
目 標		②の目標値		事故件数（233件未満） 死傷者数（263人未満）	事故件数（240件未満） 死傷者数（281人未満）	事故件数（272件未満） 死傷者数（312人未満）	事故件数（317件未満） 死傷者数（353人未満）				
目標値設定の考え方											
市内での交通事故の発生と死傷者数を前年より減少させる。											
活動指標		③の数値		①新設97箇所、交換8箇所②春・秋各1回③幼児10回、児童10回、生徒1回、高齢者1回④1,539,612円⑤A2,705人、B1,130人⑥300人	①新設84箇所、交換23箇所②春・秋各1回③幼児5回、児童1回、生徒0回、高齢者1回④1,534,986円⑤A2,644人、B1,092人⑥216人	①新設49箇所、交換15箇所②春・秋各1回③幼児9回、児童9回、生徒3回、高齢者0回④1,535,490円⑤A2,411人、B882人⑥225人					
3 経費	事業費（実績）		円	3,277,886	2,106,037	3,119,208	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,250,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値（退職手当組合負担金、共済費も含む。）				
	財源	一般財源	円	3,134,256	1,978,747	2,994,858					
		特定財源（国・都・他）	円	143,630	127,290	124,350					
		（うち受益者負担）	円	0	0	0					
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.96	0.96	0.96					
		所要人数（再任用）	人	0.0	0.0	0.0					
		職員人件費（再任用以外）	円	7,977,600	8,044,800	7,920,000					
職員人件費（再任用）	円	0	0	0							
事業費+人件費		円	11,255,486	10,150,837	11,039,208						
4 環境変化等	(1) 開始年度	不明 年度									
	(2) 環境の変化	・中学生を対象としたスタントマンによる体験型自転車交通安全教室を警察署の協力を得て、平成20年度から実施している。 ・高齢者を対象とした交通安全教室を平成27年度から実施している。令和3年度は、計画及び周知はしたが新型コロナウイルス感染症対策により、中止とした。 ・運転免許証を自主返納した65歳以上の市民を対象（希望者）にコミュニティバス回数乗車券の交付を令和元年7月から新規事業として実施している。									

事業名称	交通安全推進事業費 [交通安全推進事業]			
担当部署・課長名	道路交通（土木）	課 交通対策（交通安全対策）	係	課長名 一ツ木 正美

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生を対象としたスタントマンによる体験型自転車交通安全教室では、令和3年度ではないが、過去の議会において、さらなる広報により近隣住民等の一般の参加を促す必要があるとの意見があった。</li> <li>・高齢者運転免許証自主返納支援事業では、「ちょこバスの回数乗車券を貰っても、自分が住む地域にはちょこバスが走っていない。」、「ちょこバスの回数乗車券だけでなく、多くの特典があるとよい。」などの要望等があった。</li> </ul>			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組んだ	取組手法：⑥情報提供・情報交換（広報媒体：市報・チラシ・ホームページ）		
	<input type="checkbox"/> 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点				
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容（「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題（3）を転記）			
	高齢者運転免許証自主返納支援事業では、コロナ禍で申請者数の予測が難しい。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者運転免許証自主返納支援事業では、エクセルで集計表を作成し、重複申請がないよう検索機能も取り入れ、適切にしている。</li> <li>・回数乗車券の購入について、年度末に残らないよう努めた。</li> <li>・各種交通安全教室・講習会は、新型コロナウイルスのため中止になった事業もあった。</li> </ul>			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）			
コロナ禍が継続した場合であっても、各種事業を開催するための方策を考える。又は事業を開催しなくても、事業内容を周知できるような対策を検討する。				
8 施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）				
施策名： 道路・交通の整備				
<input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> 環境の変化等により成果が減少している <input type="checkbox"/> 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）				
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）			
	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止			
	【取組内容】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が収束した折には、体験型自転車交通安全教室の実施について、開催日程を決める際に、一般参加者（特に保護者）が参加しやすい土曜日や日曜日（公開授業）などに開催する等、中学校との調整も必要になる。</li> <li>・高齢化社会により、高齢ドライバーが関与する交通事故も増加傾向にあることから、交通事故の減少を図るために、引き続き、高齢者の運転免許証の自主返納を促す情報提供や交通安全教室を行っていく。</li> </ul>			
(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が収束した折には、体験型自転車交通安全教室の実施について、開催日を決める際に、一般参加者（特に保護者）が参加しやすい土曜日や日曜日（公開授業）などに開催するために、次年度の学校行事を決める早い段階で中学校との調整が必要である。</li> </ul>				